

より良い消費生活を営むために金融についての知識や判断力を身に付けさせる学習の実践
～お金の働きを通して、金融への関心を高め、金融の社会で果たす役割について考えさせる～

1 設定の理由

金融広報中央委員会が国民の金融リテラシー調査を実施した（2016）。今後の課題として、「金融教育を求める声にこたえるべく、より広範に、かつ各年齢層の重点課題を念頭に置きつつ、金融教育等を実施していくことが必要である」と述べられた。また、「消費者教育の推進に関する基本的な方針（2013年6月文部科学省）」の「2. 消費者教育の推進の基本的な方向 3 他の消費生活に関連する教育と消費者教育との連携推進」で、金融リテラシーは、自立した消費生活を営む上で、必要不可欠であり、消費者教育の重要な要素であることから、金融経済教育の内容を消費者教育の内容に盛り込むとともに、金融経済教育と連携した消費者教育を推進することが重要であると示された。金融経済教育をテーマにした実践を行うことは意義のあることと考え、本主題を設定した。

2 研究仮説

- （1）テーマ「金融経済」で単元を構成することで、指導の流れが明確になり、「金融はなぜ必要なのか」ということを理解させる授業が展開できるだろう。
- （2）話し合いやゲームなどの活動を行うことで、自分たちの生活や社会とのかかわりについてなど、金融の役割への認識を深める学習ができるだろう。

3 研究内容

- （1）金融教育を行うにあたって
- （2）指導計画
- （3）授業実践

4 結論

（1）研究の成果

単元構成を組み替えたことで、「金融経済」についての学習を計画的に行えた。企業側と消費者側の視点をとらえさせる指導計画で展開したことで、金融の仕組みや役割を理解させることができた。人生の選択を「マネープランゲーム」を通して体験し、周りのグループと比較することで様々な生き方があることを確認できた。「金融経済」についての学習の導入を、話し合いやゲームなどの活動で学習を進めたことで、金融への関心が高まり、金融の役割の認識を深める学習を展開することができたと言えるだろう。また、講師として銀行員の話聞くことで銀行業務と銀行の役割を再確認させることができた。

（2）今後の課題

改正資金決済法等の施行（2017年4月～）のように社会は日々変化している。金融にかかわる悪質商法や投資詐欺の被害も多い。今後ますます、社会科の教科書に記載されたことだけでなく、家庭科など他教科との連携や、金融庁などの公的な機関から情報収集を行っていく必要がある。

千葉市教職員組合
千葉市立幸町第一中学校
清水 陸平
千葉市立 真 砂 中学校
藤田 智哉

研究主題

より良い消費生活を営むために金融についての知識や判断力を身に付けさせる学習の実践
～お金の働きを通して、金融への関心を高め、金融の社会で果たす役割について考えさせる～

1 主題設定の理由

2016年2月29日～3月17日の期間で、金融広報中央委員会が、全国の18歳～79歳の2万5千人を対象に国民の金融リテラシー（金融に関する知識・判断力）調査をインターネット上で実施した。海外との比較で、金融商品や金融サービス、税制、教育制度等の面で事情が異なるため、幅を持ってみる必要があるとしたうえで、アメリカと比較すると共通の正誤問題に関する正答率が10%下回っており、ドイツ、イギリスと比較したときの共通の正誤問題に関する正答率が7～9%下回っていた。また、何かを買う前にはそれを買う余裕があるかどうかを確かめるなど、望ましい行動をとる人の割合も7～17%下回っていることがわかった。今後の課題として、金融教育を求める声にこたえるべく、より広範に、かつ各年齢層の重点課題を念頭に置きつつ、金融教育等を実施していくことが必要であると述べている。

また、文部科学省は金融経済教育について「消費者教育の推進に関する基本的な方針（2013年6月）」の「2. 消費者教育の推進の基本的な方向 3 他の消費生活に関連する教育と消費者教育との連携推進」で次のように述べている。

- ① 金融リテラシーの向上を通じて、国民一人一人が、経済的に自立し、より良い暮らしを送っていくことを可能とするとともに、健全で質の高い金融商品の提供の促進や家計金融資産の有効活用を通じ、公正で持続可能な社会の実現に貢献していく。
- ② 金融リテラシーを身に付けるためには、家計管理や将来の資金を確保するために長期的な生活設計を行う習慣・能力を身に付けること、保険商品、ローン商品、資産形成商品といった金融商品の適切な利用選択に必要な知識・行動についての着眼点等の習得、事前にアドバイス等の外部の知見を求めることの必要性を理解する。
- ③ 金融リテラシーは、自立した消費生活を営む上で、必要不可欠であり、消費者教育の重要な要素であることから、金融経済教育の内容を消費者教育の内容に盛り込むとともに、金融経済教育と連携した消費者教育を推進することが重要である。

現行の中学校学習指導要領社会科解説では、「家計の貯蓄などが企業の生産活動や人々の生活の資金などとして円滑に循環するために、金融機関が仲介する間接金融と、株式や債券などを発行して直接資金を集める直接金融を扱い、金融の仕組みや働きを理解させることを意味している。」ということが示されている。

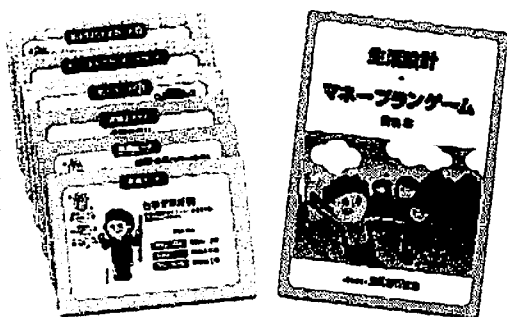
2 研究仮説

- (1) テーマ「金融経済」で単元を構成することで、指導の流れが明確になり、「金融はなぜ必要なのか、どうしてそのような仕組みがあるのか」ということを理解させる授業が展開できるだろう。
- (2) 金融について、話し合いやゲームなどの活動で学習を進めることで、自分たちの生活や社会とのかかわりについて、金融の役割の認識を深めることができるだろう。

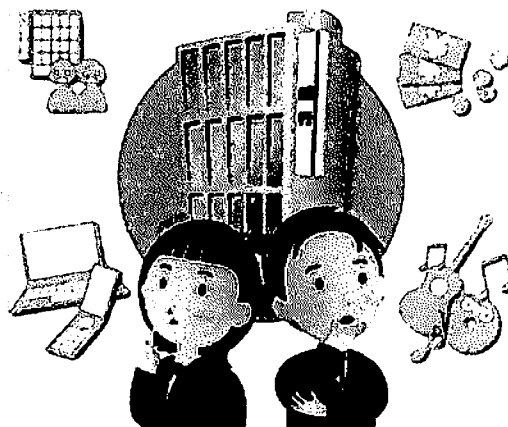
3 研究内容

(1) 金融経済教育を行うにあたって

金融という言葉が中学生が認識することは難しいと考える。そこで、身近なストーリーをもとに、自分たちの生活・社会とのかかわりを明確にし、そのうえで、金融の仕組みや銀行（金融機関）の役割など、中学生が当事者意識を持ちにくい「金融」について、全国銀行協会が提供している「生活設計・マネープランゲーム」と「あなたと銀行のかかわり」を活用し、関心を高めさせる授業を展開した。



「生活設計・マネープランゲーム」



「あなたと銀行のかかわり」

(2) 指導計画

時	学習内容	学習活動
1	○くらしと経済 ・企業を通して経済を考える 「コンビニエンスストアの経営者になってみよう」	・経営者の視点から消費者の消費行動について考えることで、生活と経済との関係、経済活動における限られた資源の選択について気づく。
2	○くらしと経済 ・消費者として経済を考える 「生活設計・マネープランゲーム」	・20～30 歳代のライフプランづくりを通して、生活設計とマネープランを体験する。 ・将来の家計の支出を予測し、検討することで、収入と支出のバランスとより良い消費生活の在り方について考える。
3	○くらしと経済 ・企業と家計をつなぐ金融①	・金融機関の代表である「銀行」の三大業務について理解する。
4	○くらしと経済 ・企業と家計をつなぐ金融②	・銀行の預金と貸出業務（資金仲介）が、経済活動の発展に寄与していることを理解する。
5	○まとめ 講演	・金融経済教育授業のまとめとして、銀行員から銀行業務や仕事のやりがいなどを聞く。

(3) 授業実践

○1時間目 「コンビニエンスストアの経営者になってみよう」 (資料1)

(内容)

商品を販売する「経営者」の立場になって、商品を購入する「消費者」の消費動向を考えながら、利益が出るコンビニエンスストアの経営を考える活動を行った。

まず、教科書の地図内A～Eのどの場所にコンビニエンスストアを開店するか、開店する場所とその場所を選んだ理由を個人で考えさせた。生徒からは、「Aは駅が近いので、多くの買い物客が来る」「Eはサッカー場が近くにあり、試合に来た人が買い物をする」といった意見が挙げられた。教師から、コンビニエンスストアの買い物客の交通手段は「徒歩：車＝7：3」というデータがあることが伝え、生徒たちは改めて自分の選択について確認した。個人で開店する場所を考えた後は、4人1班のグループを作り、「共同経営」という形でA～Eのどの場所にコンビニエンスストアを開店するか意見を出し合った。

教科書の「コンビニエンスストアに関する資料」の情報(①売上高に占める各商品の割合(2013年度)②利用客の年齢別割合(2013年度)③一人の利用客が利用する頻度(2013年度版)④1日平均の客数・客単価・売上高(2014年2月平均))を確認した後、A～Eの周辺に何があるのか一つずつ確認し、どのような人にとって利用しやすいか、コンビニエンスストアの売り上げに繋がるかを考えていた。

ある班からは「資料を見ると、コンビニエンスストアの利用者の90%が20歳以上で、4分の1以上の人が週4回来ていることが分かるので、Bのオフィス街が良いのではないか」という意見や、「Cの場合、すぐそばに幼稚園や小学校があり、住宅地にも位置しているため、日用品が必要な時や急を要する際に利用しやすい」といった意見が挙げられた。

次に、ここまで選んだ場所と合わせて、コンビニエンスストアの売り上げを伸ばすアイデアを班で話し合いを行わせた。ある班からは、「他のコンビニには無い、オリジナル商品を販売する」といったアイデアが挙げられた。

売り上げを伸ばすアイデアに正解は無く、最近では高齢者をターゲットに、コンビニエンスストアとカラオケを併設しているケースがあることなどを伝えた。そのようなコンビニエンスストアがあることを初めて知った生徒も多く、非常に驚いていた。

(おもな感想)

- ・思いつかなかった意見が聞けて良かった。
- ・経営者の立場で考えたことがなかったから、話し合いでいろいろ考えることができて楽しかった。
- ・考えるのが大変だったけど楽しかった。
- ・班で話し合うことで、班みんなの意見が聞けてとても興味深かった。
- ・話が早くまとまらなかったのは今回が初めてだった。でもそのおかげで、自分の意見もたくさん言えたのでよかった。
- ・班の中の男子と女子で意見が分かれたけど、どちらも引かずたくさんアイデアが出た。
- ・話し合いを通して経営者の方々は消費者や店の売り上げのために様々なことを考えて営業しているのすごいなと思いました。

○2時間目 「マネープランゲーム」

(内容)

20～30 歳代のライフプランづくりを通して、自らの生活に必要な選択とお金との関わりについて考えることができる。

(展開) (資料2)

指導過程	学習内容と活動	指導上の留意点
導入	○前時までの学習内容について振り返り ・コンビニ経営者の視点から、経済活動について理解できたことを確認。	・この後の取組みを、4人1班で行うことを伝え、班長を中心に班の意見をまとめるように指示する。
展開	将来の生活を疑似体験することで、自分とお金との関わり方について考えてみよう。 「生活設計・マネープランゲーム体験」 (20～30 歳代) ○20 歳代の人生体験を行う。 ・「収入」「基本生活支出」「自動車の購入」を体験する。 ○30 歳代の人生体験を行う。 ・「結婚」「子育て」「住居」「自動車」「保険」「イベント&アクシデント」を体験する。 ○人生体験のまとめ ・貯蓄額・思い出ポイント・人生のタイトルを決め発表。他班の結果を共有する。 ○ゲームに関連する重要単語の確認 ・家計・収入と支出・非消費支出・貯蓄	・収入カードの「仕事の特徴」、基本生活支出カードの「生活の特徴」についても確認をするように指示を出す。 ・ライフイベントとそれにかかる費用について、ローン、保険の仕組みや役割について理解ができるようにする。 ・「人生の選択」「お金との関わりについて」を軸に、班ごとにまとめを進めるよう促す。
まとめ	○人生体験のまとめ ・他班の結果と比較しながら、選択の違いによって、人生設計やお金との関わり方が大きく変わること気づく。	・今回の体験を踏まえ、将来の生活設計について、お金との関わり方について、自分ごととして考えられるよう指導する。

(主な感想)

- ・思い出がたくさんあっても、借金があっては意味がないと思った。先のことを考えて人生を選択していかなければいけないと思った。
- ・人生についてよく考えたくなった。
- ・20～30 歳代は借金が多く、結果マイナス 3,530 万円になってしまった。計画をしっかりと立て、何にいくら使うか考えて物を買うようにする。
- ・計画的に物事を進められることができ、貯金も残せたので良かった。高望みせず、現実的な考えも必要だと思った。

○3、4 時間目 「あなたと銀行のかかわり」

(内容)

銀行の三大業務を学ぶ学習を通して、金融の仕組みや働き、日本銀行の役割について理解し、銀行の資金仲介機能が経済活動の発展にどのような役割を果たしているか考える。

(展開) 3 時間目 (資料 3)

指導 過程	学習内容と活動	指導上の留意点
導入	○金融という言葉の意味を理解する。 ・お金を融通する＝金融	・金融機関の代表である銀行と自分たちの生活との関わりについて考えることを伝える。
展開	金融機関の代表である銀行は、どのような仕事をしているのだろう ○銀行の三大業務について知る ・動画で学ぶ銀行の仕事 ・金融機関の代表である「銀行」は、「預金」と「貸出」の業務から利益を得ていることを理解する。 ○日本銀行の3つの働きを理解する。 ・物価の安定、景気変動の調整 ○「日本銀行」と「銀行」の関係 ・日本銀行は最後の貸し手の役割	・DVD「動画で学ぶ銀行の仕事」 ・貸出金利と預金金利の差額が銀行の利益になっていることを説明する。 ・ワークシートで金融のしくみと銀行の役割で、理解を深めさせる。
まとめ	○社会における銀行の役割	

(展開) 4 時間目 (資料 4)

指導 過程	学習内容と活動	指導上の留意点
導入	○前時の振り返り ・「預金」と「貸出」の関係について →銀行はお金の橋渡し役であること	・前時の学習内容を振り返り、銀行がお金の橋渡し役であることを確認する。
展開	銀行は社会にとって、どのような役割を果たしているのだろう？ ○銀行の貸し出せる資金が不足するとどうなるか考える。 →ローンが組めないで家を買えない 企業の活動がにぶくなる	・考えが出にくい場合には、「お金を借りた個人や企業は、どんなことができるか」を考えるよう

	○貸出を受けた個人や企業は、どのようなことができるのか考える。 →企業：人を雇う、新たな商品開発 個人：新たな商品の購入 など ○社会における銀行の役割を確認	促す。 ・銀行がお金の橋渡し役になることで、社会の豊かさを支える大切な役割を担っていることに気づかせる。
まとめ	○「生活設計・マネープランゲーム」、「あなたと銀行のかかわり」を活用した授業を振り返り、感想などまとめる。	

(感想)

- ・銀行は人々の生活をより良くするために、欠かせない存在だと分かった。
- ・銀行は、お金を預けたり借ったりする所だというのは分かっていたけれど、そのお金が他の人に貸し出されていることは知らなかった。「振込」は実際にお金移動しているわけではなく、データのやりとりで瞬時にできるのは凄いと思った。
- ・将来に役立つ知識だから理解しようと思う。
- ・私たちが普段預けているお金は、いろいろな人の役に立っていると知って嬉しかった。

○5 時間目 「金融の基本と銀行の役割」(講演) 講師：千葉銀行CSR部久保田 麻友様 (内容)

最初に、自己紹介と担当している広報 CSR 部の仕事についての説明が行われる。広報の仕事としては、銀行のファンを増やすための活動や、今回のように子どもから大人まで金融の仕組みについて知ってもらうための活動をしているということを説明した。これからの生活の中で、ほとんどの人が利用することになるであろう「銀行」について、今日の講義で改めて確認していくことが伝えられた。

講義の前半は、「お金」に関する出来事について考えてみるところから始まる。「お金を使うのは、どんなとき」、「お金は、使った後どうなるの」、「お金は、どうしたらもらえるの」、「お金には、どんな種類があるの」、「お金は、どうして大切なの」。生徒たちはそれぞれについて考え、意見を発表した。物などを買うときにお金を使い、使った(払った)お金は店舗の利益となること、お金の種類は基本的に2つ、「紙幣」と「硬貨」だが、現在では現金を使わないICカードなどもあることが講師より補足された。

次に、「金融」と「金融機関」について、「金融」とは、お金を預かったり貸したりといった、お金の流れや仕組みのこと、「金融機関」とは、銀行など、金融を行う会社のことということを確認した。ここで、講師から、銀行は経済社会の中心的存在で、「預金」、「貸出」、「為替」の三大業務を通して、お金の流れをスムーズにするための潤滑油のような役割を果たしていることが伝えられ、業務内容を詳しく確認した。

銀行にお金を預ける人がいなければ、お金を必要としている個人や企業にお金を貸し出すことができず、新しい商品やサービスが市場に出回らなくなり、銀行は経済活動の中で

大切な役割を担っていることが説明された。

講義の後半は、「家計の収入と支出」について考えた。「決まったお小遣いをもらっている人はいますか」という講師の問いに、8割程度の生徒が手を上げた。また、「高校生になって、アルバイトをしてみたいと思っている人はいますか」という問いには、1割程度の生徒が手を上げた。お小遣いやアルバイトで手元に入ってくるお金のことを「収入」、出ていくお金のことを「支出」と言うこと、収入と支出のバランスが大事であることを確認した。

10代、20代、30代と生活に沿った収入と支出の特徴を確認する中で、生活費と銀行の関わり、ローンの活用について理解を深めていった。銀行で扱う商品には、主に、2種類の預金商品（普通預金・定期預金）、3種類の貸出商品（住宅ローン・自動車ローン・教育ローン）などがあり、その他にも使い道やニーズに合わせた様々な商品が取り扱われていることが説明された。

最後に、2016年3月の段階で千葉銀行は地方銀行の中で預金残高・貸出残高が国内第二位であること、千葉県内のシェアは1位であること、海外にも3つの支店（ニューヨーク、香港、ロンドン）があり、グループ会社と一体となり、幅広い金融商品・サービスの提供を行っているということ、また、銀行員の仕事は単純にお金を扱う仕事ではなく、「お客様の夢を応援する仕事」であることが伝えられ、講義は終了した。

受講後、代表の生徒から、金融経済教育を学ぶまではお金や経済に興味がなかったが、授業や今日の講義を通して、お金や金融のことを知っておく必要があると感じたという感想と、講師への感謝の言葉が伝えられた。

（感想）

- ・社会科の授業で習ったことを再確認できてよかった。知らないこともあって、楽しかった。将来、銀行をたくさん利用すると思うので、今回知ることができてよかった。
- ・お金の大切さを感じることができた。銀行はたくさんのできることで、銀行がなくなったら大変だということも分かった。千葉銀行は規模が大きくてビックリした。
- ・これから自分と関わっていく銀行に、どんな役割があるのか、自分がどのように利用していけばよいのか知ることができたので、良かったです。
- ・授業でわかりにくかった部分も、分かりやすかったです。銀行の仕事に興味をもつことができました。
- ・「普通預金」「定期預金」など、聞いたことはあっても意味が明確に分かっていなかった言葉や仕組みがよく分かりました。自分のやりたいことや欲しいものを、将来ローンを使えばかなえられるかもしれないので、今からしっかり知識を身に付けておきたいです。

4 結論

(1) 研究の成果

①研究仮説(1)について

単元構成を組み替えたことで、「金融経済」についての学習を計画的に行えた。1時間目「コンビニエンスストアの経営者になってみよう」と2時間目「生活設計・マネープランゲーム」で、経済活動における、企業側の視点と消費者側の視点をとらえさせることができた。そして、3時間目と4時間目「企業と家計をつなぐ金融」で銀行を中心に金融の仕組みや働きを理解させることができた。そして、5時間目に講師として銀行の仕事に携わる方から話を聞くことで、銀行業務と銀行の役割を再確認させることができた。

「自分のやりたいことや欲しいものを、将来ローンを使えばかなえられるかもしれないので、今からしっかり知識を身に付けておきたいです」という生徒の感想などから、「金融経済」をテーマに単元を構成して学習を行った成果があったと言える。

②研究仮説(2)について

「コンビニエンスストアの経営者になってみよう」は経済学習の導入として教科書に記載されている内容で、これまでも授業で扱ってきた。今回は、実践した学校がある地域と同じような構成で教科書のイラストが描かれていた。学校の周りにある施設や交通網などをもとに、地方自治の学習をしていたこともあり、話し合い活動では積極的に意見を述べるができる生徒が多かった。人生の選択を「マネープランゲーム」を通して体験し、周りのグループと比較することで様々な生き方があることを確認できた。「金融経済」についての学習の導入を、話し合いやゲームなどの活動で学習を進めたことで、金融への関心が高まったことで、金融の役割の認識を深める学習を展開することができたと言えるだろう。

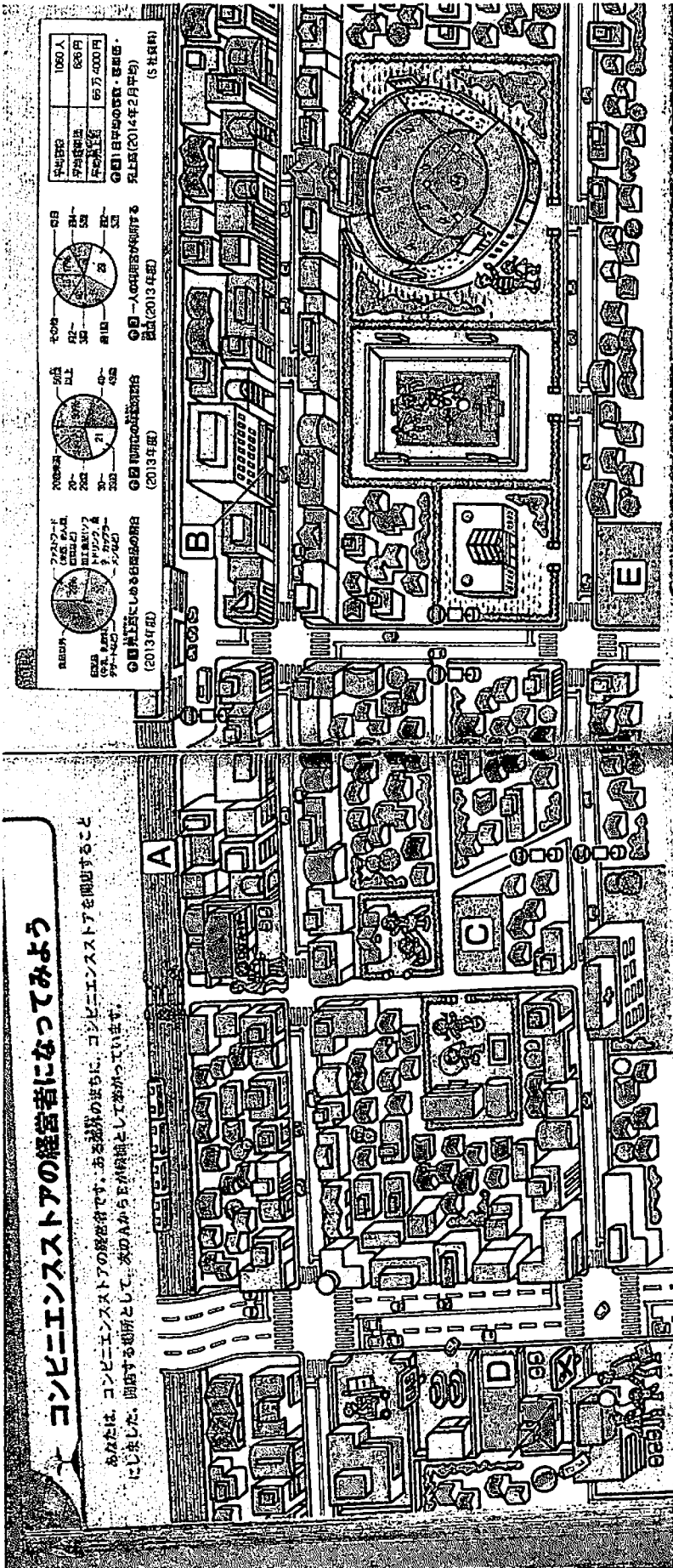
(2) 今後の課題

仮想通貨交換サービスの実施(改正資金決済法等の施行 2017年4月～)のように社会は日々変化する。また、実体のない投資話などを持ちかける悪質商法や投資詐欺の被害も多く、トラブルを避け、確かな生活を実現するためにも、金融リテラシーを育む「金融経済教育」が求められている。金融リテラシーは「お金やお金の流れに関する判断力」であり、政府の金融経済教育研究会では、「最低限身に付けるべき金融リテラシーの4分野15項目」が取りまとめられている(2013年4月)。今後ますます、社会科の教科書に記載されたことだけでなく、家庭科など他教科との連携や、金融庁などの公的な機関から情報収集を行っていく必要がある。

資料

コンビエンスストアの経営者になってみよう

あなたは、コンビニエンスストアの経営者です。ある業界のうちに、コンビニエンスストアを開店すること



1. コンビニエンスストアの経営者になってみよう

氏名 _____

あなたたちはコンビニエンスストアの共同経営者です。ある郊外の町に、コンビニエンスストアを開店することになりました。開店する場所として次のA～Eが候補にあがっています。開店するにあたり、銀行から資金を借ります。銀行は当然簡単にお金を貸しません。銀行が納得する計画を立てましょう。

A: 駅前のビルの1階にある。駐車場はない。

B: オフィス街の一角で、駅から徒歩5分の4階建てのオフィスビルの1階にある。駐車場はない。

C: 住宅地の中に位置し、付近には幼稚園、小学校、総合病院がある。駐車場有。

D: 交通量の多い国道に面している。同じ国道沿いの付近には工場や大型ショッピングセンター、ファミリーレストラン、ガソリンスタンドがある。広い駐車場有。

E: 駅から徒歩10分ほどのところ。付近には、野球場やサッカー場、多目的ホールがある。駐車場有

(グループワーク)

① A～Eの場所のうち、どこにコンビニを開店しますか。

場所	理由
く	_____

② これからのコンビニが、儲かっていくためには他のコンビニとの違いを出す必要があります。

①の立地場所と合わせて、売り上げを伸ばすアイデアを考えましょう。

(売り上げをのばすアイデア)	(話し合いメモ)
_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____
_____	_____

(振り返り)

- ・理由をしっかりと考えて書けた (はい いいえ)
- ・自分の意見が言えた (はい いいえ)
- ・ほかの人の意見が聞けた (はい いいえ)
- ・話し合いの中で考え方が変わった (はい いいえ)

感想など

救急して救済!!

[illegible][illegible]

【20—30歳代の人生を振り返って、どんな人生だったか、これからどんな人生にしたいかについて考えよう】

資料 2

[illegible]

さまざまなフイバントを体験!!

[illegible]

◆01日				- 戸建て・マンション・賃貸 (借主・家主・大家さん)		
一人暮らし				0		
□ = 2人(50坪)以下暮らし	○ 借主			h		万円
	○ 家主の収入			i		万円
		万円 × 1.2倍 =				万円
借主宅の(賃貸)				j		万円
		万円 × 1.0倍 =				万円
				Dis-h = h - j		万円

[illegible]

●これまでの収支のバランスを振り返って、どんな金だったかこれからどうしたいか考えよう：

＊30歳代までの貯蓄（※4） 万円
 ＊30歳代までのポイン 点
 ※4 収入の10％を引いた額

＊これまでの収入の、ボーナスや収入増分を振り返って、どんな人生だったかこれからはどうしたいか考えよう！

(「マネープランゲーム」人生の選択カード例)

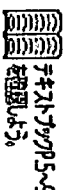
[illegible]

2.金融のしくみと銀行の役割

銀行の主な業務

樂器の内容

■全館のしくみ

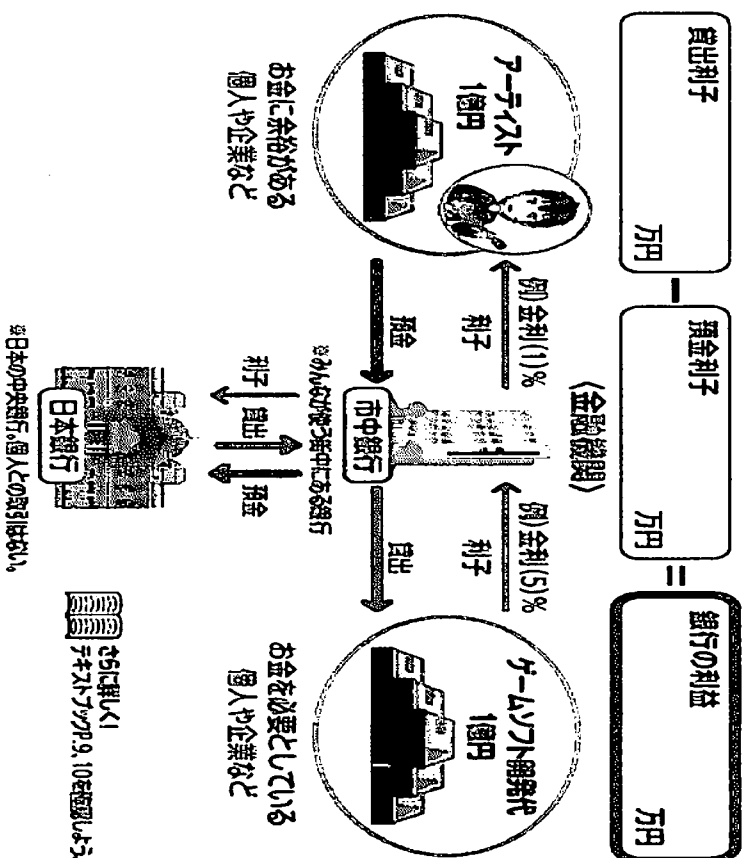


①「預金」と「貸出」はどのような関係があるのだろう。

②銀行はどのようにして利益を得ているのだろう。

貸出金利5%(1年間)、預金金利1%のときの銀行の利益を算出しよう。

金利…元金(にこは圓)に於いて、どのくらいの割合で利子を払うかの比率。



※日本の中央銀行。個人との取引はない。

さしに詳しく！
テキストブックP.9, 10を要読しよう。

③「銀行」と「日本銀行」はどのような関係があるのだろうか。

④銀行は社会にとってどのような役割をはたしているのだろう。



資料 3

今日の試練で
我家に残ったことを喜ぶぞう

資料 4

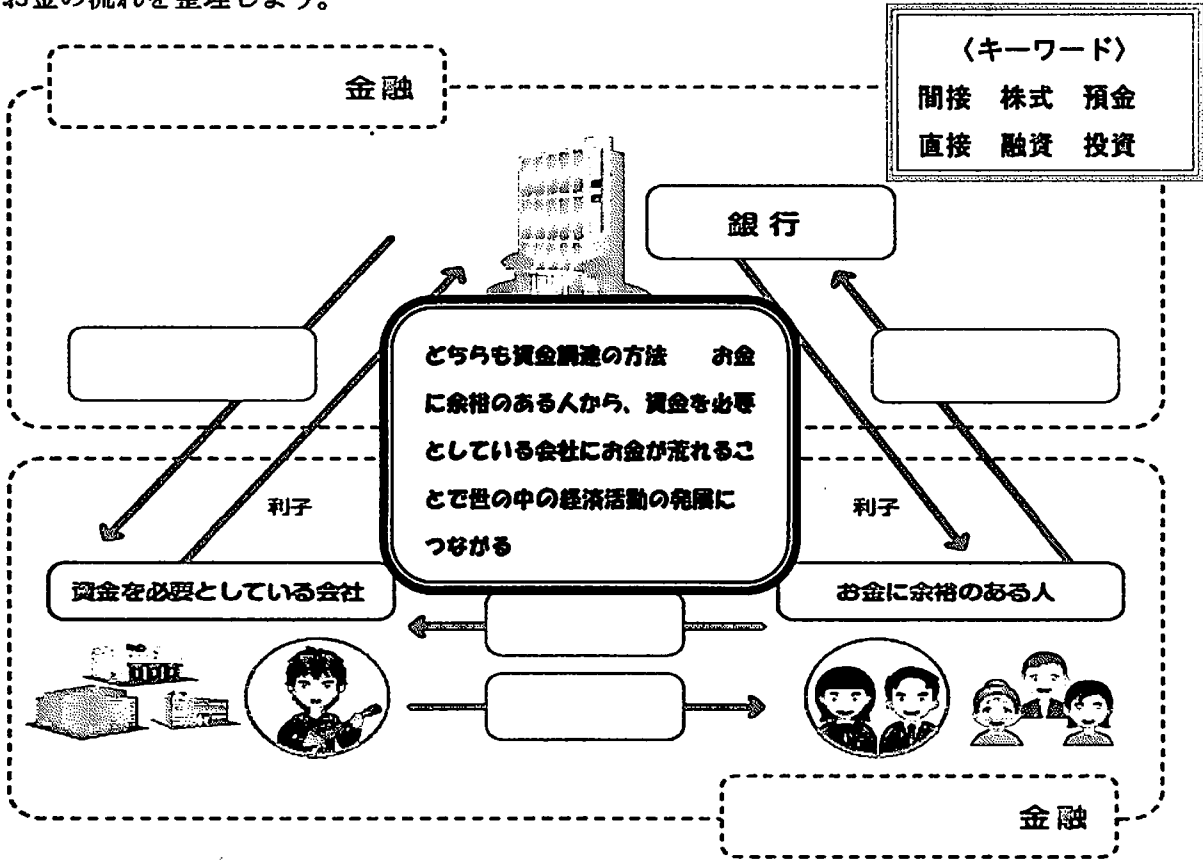
4 金融の仕組みと銀行の役割②

氏名 _____

○資金調達にはどのような方法があるか。思いつくままに書きだそう。

○資金調達方法の中で主に行われているのは・・・

○資金調達方法にはどのような違いがあるか。下の図と、文章に適切なキーワードを入れて、お金の流れを整理しよう。



「資金を必要としている会社」と「お金に余裕がある個人」を銀行などが仲介して _____ 的に資金を貸し借りする仕組みを _____ 金融という。

「資金を必要としている会社」が「お金に余裕がある個人」から _____ 的に資金を調達し、会社の利益を分配する仕組みを _____ 金融という。

○貸出を受けた個人や企業は、どのようなことができるだろうか。

○銀行の貸し出せる資金が不足するとどうなるだろうか。近くの人と考えてみよう。

(感想)